資源環境経済学特別演習 II 議事録（１月）

２０１１ 年 度 第 １ ２ 回

報告題名　持続可能な地域づくりにおける文化財の役割に関する研究	
報告者　赵雯博	**日時**　　１月 26 日　午後３時～
（**所属分野**）　環境経済学分野	**場所**　第二講義室
座長　池田　真也	**議事録担当者**　神浦友樹

出席者

長谷部、木谷、安江、小山田、米澤、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、スチン、八木、神浦、水木、宮里、池田、易思、威廉、王、金、滝田、タンボウニ、中村、山口、林、泉井、金、黄、今井、渋谷、畠山、室井、ナスンムンク、徐、趙、劉、王、池畑、井坂、管野

報告要旨

中国経済の急速な発展の背景に、中国政府は 2004 年に「和谐社会」を構築する方針を提出しました。「和谐社会」のポイントは、人と人、人と環境、社会全体の調和することです。農業は、英語で agriculture と書いています。これは人、資源、文化の繋がりを表示しています。私は持続可能な地域づくりのため、文化がその重要な一部分であると思っています。なので、私は今回の研究で、中国の地域文化が生む伝統芸術「剪紙」を事例として、文化財が中国では持続可能な特徴ある地域づくりにどのような役割を与えるかを検討します。この目的達成するための方法として、４つがあります。１、剪紙工場の経営管理面についてのインタビュー（事前調査）２、剪紙工場の従業員対象の剪紙に関する意識調査（質問紙調査とインタビューの実施）３、一般市民対象の剪紙に関する意識調査（質問紙調査の実施）そして、調査の結果より、仮説を設定して、仮説の検証より、文化財が、中国では持続可能な特徴ある地域づくりにどのような役割を与えるかを検討します。

質疑・応答

劉：農業と剪紙の関係性はどういったものか。

赵：農業はただ作物を生産するというだけでなく、人と資源と文化の繋がりをつくるものでもある。つまり地域社会や伝統文化は農業を基盤として生じていると考えられ、剪紙もそのような伝統文化の一つである。

井坂：「手作りの剪紙の方が価値が高い」という文脈における価値は、作る過程において生じる文化的価値のことか。

赵：剪紙を作る技術を伝承する場合、技術を得たい人がお金を払い工場に技術を習いに行き、技術を習得すると工場から雇用してもらえる。この点で剪紙を作る技術や伝承する過程については、出来上がった剪紙は経済的な取引に基づいていると思う。

池田：非経済価値という用語はどのような意味合いで用いているのか。ここでの非経済価値はどのように測定するのか。

木谷：非経済価値を外部経済として見なす場合もあるが、今回の研究では非経済価値を外部経済として見なすことは誤りだと見なして研究を進める。

冬木：農業を主業としていて、剪紙製造が副業としての価値が無かった時代は、経済的側面を無視して労働投入ができたと思われる。つまり昔は、剪紙製造が非経済的価値のみで、産業化しなくても成立しており、後に自立化し経済的価値が生じたのではないのか。日本の農村における伝統産業も元は経済的側面から離れて発生し、その後自立化して産業となった場合が多い。今回の研究において、剪紙製造の歴史を辿ることが、その非経済的価値を分析することに役立つのではないのであろうか。

赵：参考にさせていただきます。

伊藤： 剪紙が売買されているマーケットはどうなっているのか。どのような人が売買をしており、今までに何か変化があったのか、など剪紙のマーケットの特徴を整理することが必要だと思う。また、タイトルにおける持続可能な地域づくりとはどのようなものだと考えているのか。

赵：持続可能な地域づくりについて、農業技術だけでなく、人々の生活や文化についての地域アイデンティティが重要であると考えている。

米倉：多層立体剪紙は工場で作っているにも関わらず、何故文化財とみなされているのか。製品そのものでなく、伝統的な技術を使っているから文化的な価値を持っているということか。日本においても伝統工芸品がもてはやされているおり、その大半は日用品である。剪紙は日常生活上必要な品物であるか。

赵：多層立体剪紙は包装過程には、機械を使っているが、最も大切な工程は伝統的な技術を用いて、手で作られているので、文化的な価値と非経済的価値があると考えられている。